

吉岡公民館 お茶の間通信

吉岡公民館 Tel 66-5258

西条市吉岡公民館だより

検索

「西条市吉岡公民館だより」で検索するとカラー版がご覧になれます。

1月末現在	(前月比)
世帯数 974 世帯	(+1)
男 1,048 人	(+3)
女 1,140 人	(±0)
合計 2,188 人	(+3)

行事報告

囲碁ボール大会



1月23日(金)「囲碁ボール大会」を開催しました。18人の参加者が3人ずつ6チームに分かれて皆さん楽しく試合ができました。

男の料理教室



1/27(火)今年度最後の男の料理教室を開催しました。鶏そぼろ丼とささみカツ、白菜と鶏団子の春雨スープ、いちご大福を作りました。

吉岡こどもタイム



1/28(水)今回のこどもタイムは凧に絵を描き、吉岡小学校の運動場で凧あげをしました。風も適度に吹き、子どもたちは、楽しく元気よく走り回っていました。

吉岡小5年生 環境学習



2/12(木)吉岡小5年生が環境学習として集めていた雑紙の計測を行ったところ、合計163.2kg集まりました!みなさんご協力ありがとうございました!

令和7年度 東予西中学校

「少年の日」記念行事



東予西中学校2年生が「少年の日」を迎えました。2月4日(水)に記念行事として、砥部焼絵付け体験、決意発表を行いました。大人への第一歩ですね。おめでとうございます!

地域づくり意見交換会



1月20日(火)吉岡地区の各団体役員の方々が集まり、地域づくりについての意見交換会を行いました。

行事ご案内とお知らせ

「心と体に優しいちょこっと運動 No,2」

椅子などを使って、日常生活に取り入れやすい運動をしてみませんか？

前回、とても好評でした。初めて方も2回目の方も是非ご参加ください！

- ◆日時：3月4日(水) 13:30~15:00
- ◆場所：吉岡公民館2階大ホール
- ◆講師：健康運動実践指導者
スポーツプログラマー
能智 智富美 氏

◆申し込みは公民館までお願いします

なぜ？が分かる料理の時間

地域の皆さんに向けた少人数の料理会を開催します。第1回目はパスタランチ。

料理が仕上がっていく流れを実演中心にご覧いただきながら、要点となる部分のみ実際に体験していただきます。

料理が初めての方も安心してご参加いただけます。

- ◆日時：3月9日(月) 11:00~13:00
- ◆場所：吉岡公民館 調理室
- ◆講師：吉岡地区在住 現役料理人
大澤 広貴 氏
- ◆定員：6名(申し込み順)
- ◆材料費：700円
(前菜・ポタージュ・季節のオイルパスタを予定しています)
- ◆申し込みは公民館までお願いします

古典講座受講生募集！

- 日時：令和8年4月~令和9年3月まで
毎月おおむね第1土曜日
13:30~15:30(初回は4月4日)
- 場所：西条市佐伯記念館・郷土資料館
西条市丹原町池田1711-1
(Tel 0898-68-4610)
- 内容：「百人一首」
- 講師：武田 眞 氏
- 定員：60人(先着)
- 受講料：開講日にお知らせします。
(年3000円程度)
その他 テキスト料(実費:800円程度)
お持ちの本で代用できます。
- 受付期間：2月7日(土)~3月13日(金)
- 申込先・問合せ：西条市佐伯記念館・郷土資料館
090-4336-3070(黒川)
- ※後援：西条市教育委員会

【3月のごみ収集日】※当日8時までにお出しください
 ビン、ペットボトル・・・18日(水)
 古紙の日・・・25日(水)

人権のお話

一緒に学びましょう

毎月10日は人権の日

出典：松山地方法務局・愛媛県人権擁護委員連合会主催「第44回全国中学生人権作文コンテスト」
 愛媛県大会 最優秀賞(松山地方法務局長賞) (松山地方法務局ホームページ)

受け入れること

西条市立小松中学校 2年 畑中 希心

僕は難聴だ。この障がいで、悲しい出来事もたくさんあった。それでも今、みんなは難聴の僕を受け入れてくれている。

僕は、生まれつき音が聞こえない。生まれてすぐは乳を全然飲まず、死にかけたらしい。ようやく乳を飲むようになった後、僕は耳が聞こえないのだと親は医者から聞かされた。母はショックで、とても悲しんだ。それでも、僕を幸せにしようと、一歳二か月の時に右耳、一歳六か月の時に左耳の手術をして、人工内耳というものを付けた。それで、音が聞こえるようになった。

とても不思議だった。なぜ、障がい者である僕を幸せにしようとしてくれるのか。でも、そのことを両親には聞けなかった。

そうして、僕は松山豊学校の幼稚部という難聴のための幼稚園に入学し、卒業後は地元の小学校に入学した。みんなと初めて出会った場所だ。

みんなは僕のことをとても不思議そうに見てきた。だけど、すぐに仲良くなった。けれど、友達と呼べるほど仲良しになれる人はいなかった。そして、何か月か過ぎると、一人、また一人と離れていき、僕はとうとう一人ぼっちになった。とても悲しかった。もっとみんなと話したい。けれど、話したら嫌われそうだという気持ちが強かった。だから、担任の先生と話したり、本を読んだりして過ごすことが多くなった。正直、寂しかった。ただ家では、オンラインゲームで楽しく過ごすことができた。僕の心の休けい所だった。

五年生になったある日、オンラインゲームのチャットで、「僕、実は難聴なんだ。」と思い切って言った。すると、「難聴は帰れ。」と心ない言葉を投げられた。その後も「障がい者は要らない。」「とっとと消えて！」など、残酷な言葉をいくつも投げられた。そして、ついには仲が良いと思っていた人からも悲しい言葉を投げられ、いじめられた。とても辛くて、悔しかった。大切な人に裏切られ、たまらなかった。障がい者として生まれたことを僕は憎んだ。

最悪の気持ちがしばらく続いた。でも、ネットでいじめられたことや難聴という障がいについて、みんなに知ってもらいたい、だまっちはいけないという気持ちの方が強くなっていった。それで勇気を出して、別のオンラインゲームで、再び「難聴だ。」と打ち明けた。すると、仲の良い人たちから、「どうして早く言ってくれなかったの。」とさげすまれた。こんな自分を受け入れてくれる人がいると思うとうれしかった。救われた思いがした。そして、もっと多くの人に難聴のことを知ってほしいと思うようになった。だから、小学校でも勇気を出してみんなと話すようにした。すると、そのうち友達と思える人ができ始めた。毎日の学校が楽しくなった。

僕は、小学校を卒業し、中学校に入学した。そして、他の小学校の生徒とも一緒になった。少年自然の家や体育大会などの行事で、心配事はいろいろとあった。でも、みんなのサポートがあり、楽しく過ごしたり練習したりできた。みんなは僕のことを受け入れてくれていると安心している。

けれど、まだ不安が心の底にある。また、いじめられるのではないかとこの心配が、心の中から消えない。僕はおそれる友達に聞いてみた。

「なぜ、僕を大切にしてくれるの？」と。

すると、

「君は友達だから。難聴だったとしても、それ以外は同じだから。」

と言ってくれた。その言葉で、今まで僕に関わってくれた家族や大人たちが、なぜ可愛がってくれたり、怒ってくれたりしたのか、疑問が全て解けた気がした。僕は、自分を健常者とは別の、違う存在のように感じていたが、家族や大人は、同じ子どもとして、対等に見て接してくれていたのだ。心の底から感謝し一人で涙を流した。

僕は今、普通に生活を送っている。家族がいて、友達もいる。だけど、難聴という他の人とは少し違う生活を送っている。不便なところはあるが、それ以外は何も変わらない。

人はみんな、それぞれ人権を持っている。人権は、この世の中で、人らしく幸せに生きる権利だ。健常者の人たち、難聴者の人たち、他に障がいのある人たち、人権はみんなに平等に与えられている。それなのに、少しの違いを理由に、受け入れなかったり、いじめたりして奪ってはいけない。障がいがあっても同じ人間なのだ。それぞれの個性を受け入れて認め合うことで、みんなが幸せになれる。もし困っている人がいたら、こう言いたい。「みんな同じ人間だ。だから、胸を張って前を向こう。」

僕は、これからも明るく幸せに生きていきたい。